

外国につながりのある就学前児童のための プレスクール構築に向けて

地域研究交流センター プロジェクト研究

報告書

外国につながるのある就学前児童のための
プレスクール構築に向けて

平成 27 年 3 月

研究代表者：長坂香織（看護学部看護学科外国語領域）

共同研究者：萩原孝恵（国際政策学部国際コミュニケーション学科）

奥村圭子（山梨大学留学生センター）

—目 次—

はじめに	5
I. 本プロジェクトの背景 ―外国につながりのある子ども―	7
II. 本プロジェクトの目的	8
III. プレスクールの構築にむけて.....	8
1. プレスクールについて	9
1-1. プレスクールおよびプレススクール指導者・ボランティア養成講座 実施の経緯.....	9
1-2. プレスクールの概要	10
1-3. 保護者会	12
2. プレススクール指導者・ボランティア養成講座の概要	12
3. 今後の課題	12
IV. 本プロジェクト主催のプレススクール	14
おわりに	14

はじめに

2011 年度から 2013 年度までの多文化共生推進プロジェクトでは、山梨県の多文化共生、とりわけ保健・医療・福祉分野でのそれを推進するために、大学として、また看護学部として、どのように地域に関わっていけるか取り組んできた。なかでも外国人学校の子どもは、学校健診が実施されておらず、市の保健師によるそれらの子どもの健康把握も十分ではないという現状がみられた。この原因として、外国人学校が一条学校ではないため、学校保健安全法の適用外であり、かつ地域保健法が外国籍住民を抱えるようになった現在の日本の人口構成に追いついていないことがあげられた。この 2 つの法律の隙間を埋めることを主眼に、任意団体を介して 2011 年から 2013 年のプロジェクトを進めてきた。

外国人学校の子どもの健康は、いまだに保健行政の下になく、市民団体にゆだねられている。そのため、健診のための資金調達、健診・健康相談を行う際のマンパワーなどが、その課題となっている。

上記プロジェクトを行う中で、外国につながる「子どもの学習権¹」もまた十分保障されていない例を数多く見てきた。子どもの義務教育が外国籍の保護者には課されていないこと、日本社会がこれまで多言語環境になかったために外国語を話す子供への適切な対応ができないことからくるものと思われるが、学習を支えることばのハンディは大きく、進学・就職に大きな影を落としている。

¹ 子どもは、一人の人間としてその尊厳を尊重されるべきであり、人格及び能力を最大限に発達させ開花させるための学習権を保障されている（憲法 13 条、26 条、子どもの権利条約 6 条、29 条 1 項）。（日本弁護士連合会ホームページ「子どもの尊厳を尊重し、学習権を保障するため、教育統制と競争主義的な教育の見直しを求める決議」

http://www.nichibenren.or.jp/activity/document/civil_liberties/year/2012/2012_1.html より）

I. 本プロジェクトの背景 ―外国につながる子ども―

「外国につながる子ども」という表現は、「外国につながるをもつ子ども」「外国につながる子ども」とも言われ、近年の、子どもたちの多様で複雑な国籍の状況を反映したものである。

子どもたちの国籍の状況は、実に多様で複雑である。いわゆる在日外国人と言われる韓国・朝鮮人、難民の受入れ、1980年代の外国人労働者流入、1990年の「出入国管理および難民認定法」改定による日系人の流入と定住化、中国残留邦人とその呼寄せ家族、さらには国際結婚などを考えるとその多様性は明らかである。国際結婚に至っては、日本人との離婚後、日本国籍の子どもを外国籍の親が育てている場合もある。外国籍住民の中には帰化するものもいる。また、長期間海外滞在後帰国した子女、あるいは日本国籍を含む重国籍の子どももいる。日本国籍だからと言って、決して年齢相応の日本語能力があるとは言えない。

こういった子どもたちの複雑な国籍状況を反映して、文部科学省が平成3年度に開始した「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査」²では、平成24年度からは、「日本語指導が必要な日本国籍児童生徒数」を公表している。山梨県でも、表1に示すように日本語指導が必要な日本国籍児童生徒が公立校に在籍する。その数は、平成24年度、前年比137.1%と、増加傾向にある。

表1 山梨県内の日本語指導が必要な児童生徒数* (平成24年5月)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合 計	
	児童数	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	児童生徒数	学校数
日本国籍	70	25	13	9	2	1	0	0	85	35
外国籍	147	47	35	20	10	4	1	1	193	72
合計	217	72	48	29	12	5	1	1	278	107

*脚注2 より著者作成

「日本語指導が必要な児童生徒」とは、文部科学省によれば、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じており、日本語指導が必要な児童生徒」とされている。これらの生徒への日本語支援は、外国籍生徒

² 政府統計の総合窓口

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001047825&cycode=0>

の低い高校進学率、NPO などによる放課後学習支援教室の存在などを考えると、決して十分とは言えないことは明らかである。

このような外国につながる子どもの状況を改善するために様々な取り組みが、全国、とりわけ外国籍住民集住地区で行われている。その一つが、本プロジェクトで取り組んでいる「プレスクール³」である。プレスクールは、愛知県が、モデル事業として全国に先駆け 2006 年から実施し、2010 年には、『プレスクール実施マニュアル』を作成・公開して、その普及に努めている。

II. 本プロジェクトの目的

山梨県内では、外国につながる子どものためのプレスクールは初の試みとなる。本プロジェクトの目的は、山梨県内で任意団体が実施するプレスクールの専門分野からの知見を反映させて構築することである。

III. プレスクールの構築に向けて

プロジェクトが関わったプレスクールは、任意団体「多文化社会の保健医療を考える会 JUNTOS⁴」（以下 JUNTOS）によるプレスクールであった。山梨県⁵内では初めての試みであり、中央市で行われた。中央市は、地理的には山梨県のほぼ中心に位置し、県庁所在地の甲府市から車で約 20 分から 30 分離れた所にある。推計人口は、平成 26 年 6 月現在、31,164 人、うち外国人人口は 1,339 人で総人口の 4.30% に上る⁶。当該市の外国人人口は、ブラジル、ペルーで 7 割以上を占めている。外国人人口はリーマンショック以前には 7% 台まで上ったが、その後、減少の一途を辿っている。とはいえ、総人口に占める割合からは外国人集住地域と言えよう。

³ プレスクールとは、小学校の入学予定者のうち、新一年生になる年齢の外国につながる子どもを対象として、初期の日本語指導および学校生活指導を行う就学前指導のことである。

⁴ 多文化社会の保健医療を考える会 JUNTOS ホームページ. <http://yamanashi.juntos.jimdo.com/> .

⁵ 山梨県の平成 26 年 6 月現在の総人口は 841,295 人、うち外国籍住民は 13,902 人(1.65%)。やまなしの統計

⁶ 中央市ホームページ <http://www.city.chuo.yamanashi.jp/sougou>

1. プレスクールについて

1-1. プレスクールおよびプレススクール指導者・ボランティア養成講座

実施の経緯

貧しい言語環境、不十分な学習言語、学校での生活習慣が身につかない子ども、日本の学校文化や教育事情を知らない保護者などが、全国的に外国につながる子どもをめぐって問題となっている。山梨県も例外ではない。山梨県内でも同様の状況が見られる。しかし山梨県内では、これらの課題に継続して向き合う人材・団体は限られている。そこで、JUNTOS は公益法人山梨鈴木助成事業財団の助成を受け、中央市教育委員会の協力得て、これらの教育上の課題に、子どもの幼少期にかかわることのできるプレススクール事業を行うこととした。

しかしながら、県内には、それを支える人材も、また今後プレススクールを実施できる団体も限られている。プレススクール事業の将来的な継続と広がり求めて、プレススクールに先立ち、その指導者とボランティアを養成する講座を開催した。養成講座は 9 月に 2 日間にわたり本学（山梨県立大学）で、プレススクールは 11 月から翌年 1 月まで中央市で実施した。

プロジェクト研究者は、コーディネーターとしてこれらに関わり、各々の専門分野の知見を活かして、企画から実施に至るまで、その活動を支えた。



講義風景



演習風景

1-2. プレスクールの概要

プレスクールの概要は表 2 のとおりである。

表 2 プレスクールの概要

事業名	JUNTOS 外国につながるのある子どものためのプレスクール
実施期間・回数	2014 年 11 月～2015 年 1 月，全 10 回
曜日・時間	土曜日 14：00～16：00
場所	中央市立玉穂総合会館
参加人数（延べ人数）	27 人（次年度就学児童）と 11 人（年少児，小学校 3 年児童）
参加児童の国籍	ブラジル
保護者会	プレスクール初回，最終回の 2 回

実施期間・回数は、就学時健診後の 11 月から年末年始を除き週 1 回、2 時間ずつ実施した。実施場所である中央市は、JUNTOS がこれまで外国籍住民のための健康相談会や日本語作文コンクールなどを行ってきた地域である。参加は次年度就学児童のほか、4 月にブラジル学校から公立小学校 3 年次に転入する児童、先に挙げた次年度就学児童の妹であった。

プレスクールの目的は、「外国につながるを持つ子どもたちが少しでもスムーズに学校生活に入っていけるように、子どもと保護者をサポートすること」とし、その内容は以下のとおりである。

- * 子ども：①ことばの学習--ひらがなの読み方、学習に必要な日本語
- ②かずの学習--算数の基礎となる数や形の概念
- ③学校での生活習慣--教科学習以外で、学校生活に必要なこと
- * 保護者：日本の教育システムと進学状況、日本の学校生活、学校(教員)とのコミュニケーションについて理解する

公開されている愛知県作成の『プレスクール実施マニュアル』や報告書、蟹江町のプレスクール教材などを参考に手探り状態で始めた。第 1 回目に参加した 2 名は、『プレスクール実施マニュアル』の語彙調査を実施したところ、1 名が 8 割、もう 1 名が 9 割正しく回答できた。しかし、「三角」、「まる」がわかっても、「かたち」という抽象概念が理解できないこと、文の復唱の際の格助詞欠如、子ども間での文字の習得の差などの状況がみられた。

そこで、できるだけインプットが多くなるよう絵本の読み聞かせを中心とした。絵本は取捨選択することで、非常に豊かで、日本語のリズムだけでなく、語彙を広げ、指導者と子どもたちとの間のコミュニケーションを促すと考える。子どもたちの興味・関心も高く、身を乗り出して聴いていた。絵本

を読んだ後で、その中の場面の絵を描くという活動も取り入れた。絵本のほかに、小学校 1 年生の国語の教科書の「あいうえお表」をカード状にしたもののカルタ取りや折り紙をした。

学校での生活習慣としては、姿勢を正して座る、「はい」という返事をする、立って答える、鉛筆を正しく持つ、整列し目的地点（トイレ）まで歩く、忘れ物をしないなどに留意して指導にあたった。

プレスクール各回の内容については、文末の地域研究交流センター報告会資料（資料 1）を参照されたい。



子どもたちは多い時で 7 名少ない時で 3 名



手作りカルタで平仮名の読みの学習



プレスクール卒業式と手作り卒業証書

1-3. 保護者会

プレスクールにおいて、保護者会の意義は大きいと考える。初回の保護者会では、プレスクールの目的や内容について、また親子の1対1の母語による会話や読み聞かせの大切さについて、通訳を介してプロジェクトの代表と共同研究者が話しをした。

乳幼児期に親が母語で1対1の濃密な会話をする事は、その後の言語発達に大きな影響を与える。しかし、保育士、保健師から、「家でも、日本語をできるだけ使うように。」という指導をした、逆に保護者から、そういう指導を受けたという話しを耳にすることがある。母語教育の重要性を、乳幼児期から保護者に十分理解してもらうことが大切である。さもないと、それ以降の言語発達に支障をきたす可能性がある。

最後の保護者会にあたっては、事前に中央市教育委員会を通して、外国籍児童の多い小学校、2校の校長、教頭、日本語担当教員から小学校入学するまでにできるようになってほしいこと、外国籍の保護者に望むことについて聞き取りをした。保護者会では、家庭での言語使用状況、入学に際しての不安について確認し、その家庭の状況に応じ、助言した。

2. プレスクール指導者・ボランティア養成講座の概要（資料2参照）

養成講座は、2日間にわたり、「子どもの発達と学習」、「外国につながりをもつ子どもたちとその背景」、「プレスクールの役割と意義」、「プレスクールの実際」と題した講義および実践報告、そして最後に演習を配した。

3. 今後の課題

プレスクールとその指導者養成講座は、緒に就いたところといえる。JUNTOSによる今回の取り組みも、山梨県内で初めての取り組みであり、未知数が多く、あくまでも試行であった。今回のプレスクールの課題を抽出し、それを今後のプレスクールに活かしていくことが、プレスクールの充実につながっていくと考える。

プレスクールの第一の課題は、プレスクールへの参加をいかに促すかである。今回、参加人数は、初回の2人から一時は4歳児と8歳児を含む7名となったが、最終回は4歳児を含む3人であった。また、保護者会も初回、最終回とも2家族のみで、片方の家族はブラジルから教科書を取り寄せているという教育熱心な家庭で、小学校中学年の長男がいる。中央市の平成 27

年度新入学生は 20 人で、そのうち就学時健診の際、プレスクール参加の意思表示したのは 10 人、実際 1 回でも参加したのは 5 人であった。8 回～10 回参加したのは 8 歳児を含め 3 人のみであった。就学時健診時の教育委員会や小学校の連携を超えた、強力な後押しが必要と考える。また、言語選択を含めた、子どもの教育への保護者の関心を妊娠期から高める必要を感じる。

第二の課題は、指導者の養成である。今回、プレスクールでの指導は、養成講座を受講した複数の受講者が担った。受講者は約 20 名であったが、そのうちプレスクールに継続して関われるのは僅かである。その中で指導者としての適性を持っている者となると、さらに少なくなる。継続して、養成講座を開催する必要がある。また、養成講座の開催は、単に指導者養成だけではなく、外国につながるのある子どもの背景と現状を広く知ってもらい、プレスクール以外の活動の担い手を育てることにもつながると考える。

三番目の課題は、プレスクールの当該年齢にない子どもの参加である。そういった子どもをフォローする活動なりシステムがない限り、その良し悪しに拘わらず、プレスクールで引き受けざるを得ない。プレスクールの年齢以外の子どもを受け入れることのできる場、たとえば、プレクラス（小学校児童生徒で来日したばかりの子どもが、通常のクラスに入る前に日本語を学習するクラス）、プレ・プレスクール（プレスクールよりさらに年少の子どものための学習機会の提供）の設置も検討する必要がある。

開催時期、回数と内容の兼ね合いも検討する必要がある。今回の JUNTOS のプレスクールは、助成金の関係で 1 月までに活動を終える必要があった。しかし、プレスクールを小学校につないでいくためには、3 月までプレスクールを実施することが好ましい。回数については、何を、どこまで、どのように扱うかで異なってくるだろう。

何よりも大きな課題は財源確保である。JUNTOS が受けた助成金は、2 年続けて同様の活動では獲得できない。継続した財源確保は、任意団体にとって大きな問題である。プレスクールは学習権に直結する取組みである。それは公共性の高い事業であり、任意団体が単独で、かつボランティアで行う事業であってはならない。プレスクールの継続に必要な財源確保は欠かせない。

最後になったが、プレスクールは、子どもの言語環境・学習環境を整えるものである。しかし、プレスクールの時点で家庭の言語環境を整えるのは、むしろ遅い。妊娠期から子どもの言語環境を整え、親の教育への意識を高める取組みを進める必要があると考える。そのためには、行政(健康増進課、

児童家庭課、教育委員会など)のより主体的な取組みが求められている。

Ⅳ. 本プロジェクト主催のプレスクール・保護者会

平成 27 年 3 月 14 日、本プロジェクト主催のプレスクールと保護者会を行った。中央市の 2 名の学校通訳を通して参加者を募ったが、2 家族の参加しか得られず、それも JUNTOS のプレスクール参加者であった。すでに JUNTOS の保護者会で言語環境、学習環境、教育などの話しはしていたが、再度、入学に向けてわからないことはないか、不安なことはないかを確認した。

おわりに

任意団体 JUNTOS がプレスクールを開催するにあたり、大学の異文化間コミュニケーション、日本語教育を担当する教員として養成講座からプレスクールの保護者会まで、その構築に関わってきた。しかし、その間プレスクールとして構築すべき何らかの定型のシラバスがあるのかという点で、常に迷いがあったと感じている。JUNTOS のプレスクールのように、少数で、かつ人数に変動のあるクラス、通常、保育所以外の場所で行われるクラスでは、保育所で、その保育時間内でする場合と異なり、その日誰が出席するかで、内容の変更を余儀なくさせられる。その点から考えると、プレスクールでの活動は、絵本の読み聞かせのような単発で与えられるものが適しているのではないか。

何人ぐらいの、どのような子どもの構成になるかは、地域によって異なる。ブラジル人が多い地域、フィリピン人が多い地域、中国人が多い地域など様々であり総人口に占める外国籍住民の比率も地域によって異なる。さらに、それぞれの外国人コミュニティの文化的背景が加わると、まったく様相が異なってくるのではないだろうか。山梨県の場合、そういう地域差を考慮した各地域での取組みが期待される。

資料

資料 1 地域研究交流センター報告会資料

資料 2 プレスクール指導者・ボランティア養成講座チラシ

資料 3 プレスクールチラシ

資料 4 保護者会チラシ

2015年3月24日
地域研究交流センタープロジェクト報告

外国につながるのある 就学前児童のための プレスクール構築に向けて

研究代表者 長坂香織(看護学部)
報告者 萩原孝恵(国際政策学部)

1

発表の流れ

1. はじめに
2. プレスクールの実施概要
3. プレスクールの実施過程の報告
4. プレスクールを終えて

2

1. はじめに

3

- ・外国につながりのある
- ・プレスクール



イラスト: 文部科学省HP(<http://www.cast-net.jp/>)より

4

表1 山梨県内の在留外国人

市町村	在留外国人数	県内比率	人口比率
1. 甲府市	5043人	36%	3%
2. 中央市	1477人	11%	5%
3. 甲斐市	1039人	7%	1%
4. 南アルプス市	929人	7%	1%
5. 笛吹市	847人	6%	1%
6. 昭和町	706人	5%	4%
この6市町に72%の外国人が在住し、人口比率では中央市が最も多い。			

資料：法務省「市区町村別 国籍・地域別 在留外国人」(2014年6月末)と
山梨県統計調査課「山梨の人口・世帯」(H26年7月1日現在)を基に算出

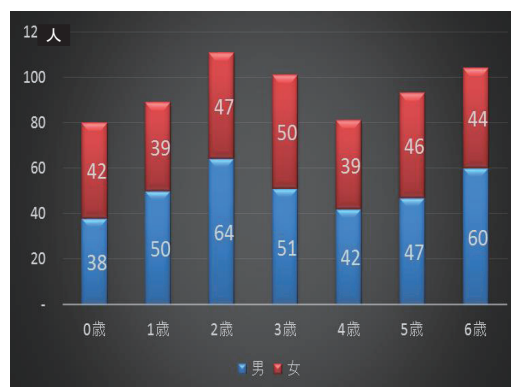
5

表2-1 15歳以下 年齢別

年齢	人数
0-6歳	659人
7-12歳	550人
13-15歳	310人

不就学外国人児童生徒

表2-2 0歳-6歳・男女別



6

外国につながるのある子どもたちの未来を創る、 地域との連携による教育支援

- ◆県内で初のプレスクールを、
- ◆県内で在留外国人比率が最も高い中央市で、
- ◆中央市教育委員会の協力の下、
- ◆平成27年度 新1年生と、その保護者を対象として、
- ◆平成26年11月1日から、毎週土曜日に2時間、計10回実施した。
- ◆スタッフは、平成26年9月13日・14日に開催した「外国につながるのある子どものためのプレスクール指導者・ボランティア養成講座」修了者、看護学部の学生等、計14名。

7

2. 実施概要

8

平成26年	
7月	プレスクール指導者・ボランティア養成講座 企画・検討
9月	プレスクール指導者・ボランティア養成講座 実施
10月	中央市就学児健診でプレスクールへの呼びかけ⇒入学予定者20名中10名がエントリー 第1回目実施に向けた準備・打ち合わせ
11月	プレスクール 第1回、第2回、第3回、第4回、第5回 実施、実施後反省会 プレスクールの目的や指導項目に関する保護者への説明 実施・運営に関する臨時ミーティング
12月	第6回、第7回、第8回 実施、実施後反省会
平成27年	
1月	第9回、第10回 実施、実施後反省会 親の会開催 田富小学校、田富南小学校 校長・教頭・各校日本語担当教員との面談
2月	愛知県蟹江町 蟹江小学校日本語支援教室 見学 愛知県蟹江町 保育園プレスクール 見学 愛知県蟹江町におけるプレスクール実施・運営に関する担当者からの聞き取り かにえ子ども日本語の会 主催者・指導者との意見交換
3月	入学直前プレスクール 開催 保護者相談会(通訳)

9

《1回目～5回目》

回	年月日	指導項目	参加者	スタッフ
1.	H26.11.01	①語彙調査、②挨拶、③『くらふとたんけんたい』(えんぴつをもつ・うごかす)、④体を動かそう(ようかい体操第一)、⑤休憩(手洗い・おやつ)、⑥『くらふとたんけんたい』(きる・おる・つくる)、⑦挨拶	2	11
2.	H26.11.08	①語彙調査(初めての参加者)、①折り紙遊び(2回目の参加者) ②月・日、天気、挨拶、③「あ」「い」の書き取りと語彙の連想、④休憩(片付け・トイレ・手洗い・おやつ)、⑤ファイル・筆箱の配布と名前記入、ファイルの使用方法、連絡帳の配布と名前記入、連絡帳の説明と音読、⑥連絡帳の記入、⑦挨拶 *保護者への連絡帳の説明	3	4
3.	H26.11.15	①はじめの会(挨拶、月・日、天気、季節に関連する語彙を使ったやりとり)、② 絵本の読み聞かせ (『だるまさんの』『大きなかぶ』、お絵かき、③休憩(片付け・トイレ・手洗い・廊下の歩き方・おやつ(いただきますの挨拶))、④ カルタとり 、⑤ 紙芝居 (『あさですよ、びよびっぴー』)、⑥連絡帳記入、⑦おわりの会(連絡帳の記入、挨拶) *指導内容に関する保護者への説明(通訳あり)	3	7
4.	H26.11.22	①はじめの会(挨拶、月・日、天気、やりとり)、②カルタとり、③紙芝居(『くまさんのぼうし』)、④休憩(片付け・トイレ・手洗い・おやつ(いただきますの挨拶))、⑤折り紙(語彙導入)、⑥絵本読み聞かせ(『バムとケロのにちょうび』)、⑦おわりの会(連絡帳の記入、挨拶)	3	4
5.	H26.11.29	①はじめの会(挨拶、簡単なやりとり)、②絵本の読み聞かせ(『だるまさんと』)、③折り紙、④休憩(片付け・手洗い・トイレ・おやつ)、③絵本の読み聞かせ(『バムとケロのにちょうび』)、④カルタとり、⑤おわりの会(連絡帳の記入、挨拶)	7	7

10

《6回目～10回目》

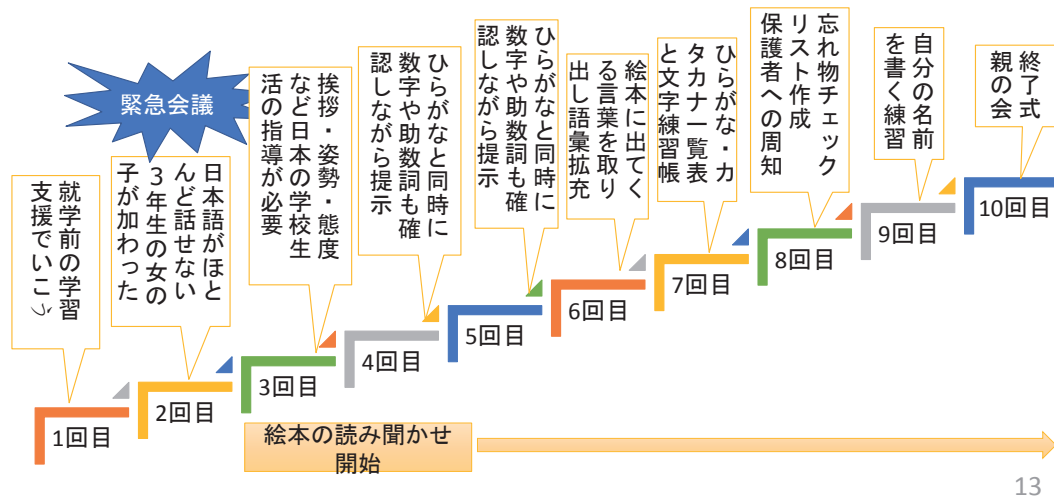
回	年月日	指導項目	参加者	スタッフ
6.	H.26.12.06	①はじめの会（挨拶、簡単なやりとり）、②絵本の読み聞かせ（『ベネロベシリーズ』仕掛け本）、ほか	4	6
7.	H.26.12.13	①はじめの会（挨拶、簡単なやりとり）、②時計の読み方、③持ち物チェック、④名前を言う・ 名前を書こう 、⑤絵本の読み聞かせ（『ことばのあいうえお』）、⑥休憩（手洗い・トイレ・おやつ）、⑦絵本の読み聞かせ（『くりすますのおくりもの』）、⑧おわりの挨拶、連絡帳返却 * いつも忘れ物をする子は同じ→保護者に話す	5	6
8.	H.26.11.20	①はじめの挨拶、② 忘れ物チェックリスト配布、忘れ物チェック 、③絵本の読み聞かせ（『クロックくんのまねっこあそび』）、休憩（手洗い・トイレ・おやつ）、④プレゼント配布、⑤歌、歌詞を板書し、音読してから全員で歌う（赤鼻のトナカイ、あわてんぼうのサンタクロース）、⑥ 名前を書く （「ひらがなれんしゅうちょう」配布、 個別指導 ）、⑦絵本の読み聞かせ（『お正月』）、⑧おわりの挨拶、連絡帳返却	6	7
9.	H.27.01.17	①はじめの会（新年の挨拶、簡単なやりとり、連絡帳・ひらがな練習帳の回収、忘れ物チェック）、②文字の練習（友だちの名前を読む）、③クリスマス・お正月の話をみんなの前でする、④休憩（手洗い・トイレ・おやつ）、⑤ひらがな練習帳のファイル配付、⑥カルタ・福笑い、⑦数字（1～10、プリント配付）、⑧おわりの挨拶、連絡帳返却	5	4
10.	H.27.01.24	①はじめの会（挨拶、簡単なやりとり、忘れ物チェック）、②時間・月・曜日の言い方、宿題（数字プリントチェック、数字の書き順確認）、③絵本の読み聞かせ（『がっこう』）、④休憩（手洗い・トイレ・おやつ）、⑤イラストに名前を書く、⑥1年生になったらやりたいこと発表、絵を描く、⑦終了式（卒業証書授与、カタカナれんしゅうちょう配付、保護者からのお礼のことば、スタッフ全員の挨拶）	3	7

11

3. プレスクール実施過程の報告

12

実施過程での指導内容の修正や変更



第1回目の記録より 日本の保育園に通う外国籍の子どもたち

他の地域のプレスクールを参考に、就学前の学習支援でいこう。

- ・ 指示もきちんと聞き取れており、特別な支援は必要ではない。
- ・ 『愛知プレスクール実施マニュアル』の語彙調査チェック表を利用し、語彙チェックを行った結果、1人は9割、もう1人は8割だった。
- ・ ただし、1人は、文の復唱の際に助詞がすべて落ちる。
- ・ ひらがなは読めるが、音と文字が必ずしも一致していない。
- ・ 書き順に問題がある。

14

第1回目を終えて

- ・中央市の就学児健診の際に、通訳の方をお願いをして、プレスクールへの参加を呼び掛けてもらった。その結果、次年度入学の外国籍児童20名の内、10名が住所などを書きエントリーしてくれた。人数としては、丁度良い人数だと感じた。しかし、実際に来た子どもは2名だった。
- ・この2名の両親は非常に教育熱心な家庭だった。



プレスクールに来て欲しい子どもたちが来ていない。

15

第2回目の記録より 年齢や日本語レベルに差のある教室運営

■Aさんのコメント

親御さんが求めているのは、小学校入学時に日本国籍の子どもと学力の水準を合わせる事だと思います。そのため、文字が書ける計算ができるなどの能力を向上させられるよう関わって欲しいのだと思います。



* 原文のまま

■Bさんのコメント

現時点で日本語での会話がほぼ成立しているので、入学後の学習にさほど外国籍児童としてのハンデはないかもしれません。二人の親御さんは日本の学校のシステムや生活習慣を知りたいことを望んでおられると思いますが、加えて二人に出来るだけ一年生の学習を進めておきたいと思われるかもしれません。親御さんは日本の文字に関してはおそらく自分達が上手く子供に教えられないので、入学後に遅れをとらないようにプレスクールで出来るだけ進んでおきたいと思われるかもしれません(カタカナや漢字も)。個別に学習を進めることも考える必要があります。

16



ブラジル人学校から日本の小学校へ

■Aさんのコメント

親御さんが求めているのは、日本語でのコミュニケーション能力を高めることだと思います。文字を書ける、計算ができるようにして欲しいのではなく授業に、ついていくために言語的な壁を取り払って欲しいのだと思います。

* 原文のまま

■Bさんのコメント

4月から四年生(?)ということで、今の日本語理解力ではなかなか学習についていくことが厳しいのではないかと感じました。どちらかという大人しく内気なタイプである上に、日本語を話すことに慣れてなく自信がないようでした。本来のプレスクールの趣旨とはズレてしまうかもしれませんが、会話重視の基礎からの日本語教育を出来るだけ進めて彼女の発話を引き出すことが大事かと思いました。ひらがなはかなり読み書きが出来そうでしたが、学年を考えるとカタカナや三年生までに習う漢字も習得しなければならず、かなりハイペースで学習を進める必要があるのではと感じました。この親子は問題点を感じて自ら参加して来られたので、出来る限りの手助けをして差し上げたいと思うのですが…。

17

第2回目を終えて

《緊急会議》

・年齢も日本語能力にも差がある。そんな子どもたちに何が必要か。
脇本(2011:12)「絵本を読み聞かせてもらうことで、子供は楽しみながら理解力や想像力を養う訓練をしている」
尾崎(2005:63)「よい絵本は、21世紀をになう子どもたちの健全な精神の成長と明るい未来を約束する」



絵本の読み聞かせをしてみよう。
子供たちの様子を観ながら、シラバス・デザイン

18



10回目 終了式



20

4. プレスクールを終えて

25

さまざまな気づきや見解

■Cさんのコメント

プレスクールのゴールは難しいなあと思いました。日本人の家庭の中で育っている子どもだってできないこともたくさんあります。外国にルーツを持つ子どもたちに特に就学前に身につけて欲しいことは何だろうと改めて考えてみたいと思います。

■Dさんのコメント

これまで見る限りでは、子どもさんたちにはあまり不安は感じませんが、むしろ保護者の皆さんが小中学校生活のルール、行事などにきちんと対応できるか不安を覚えます。保護者の皆さんの国の学校生活とは全く違いますので、いろいろなことに戸惑うことが多いと聞きます。その辺の対応を丁寧にして差し上げることもプレスクールでは大切なのではないかと思います。

* 原文のまま

26

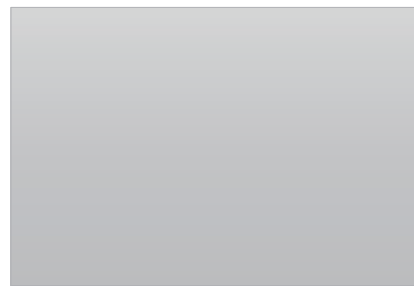
地域におけるこんな未来を創造するプロジェクト



27

今後の課題

- どうすれば来てもらえるだろうか。
 - 何が必要だろうか。
 - 10回で何ができるだろうか。
 - 小学校の椅子や机を使えないだろうか。
 - …などなど。
-
- 山梨の地域性を考えると、小規模のプレスクールが、あちこちにあることが望ましい



28

外国につながるのある子どものためのプレスクール 指導者・ボランティア養成講座 ー「外国につながるのある子ども」のことば、背景、学習を考えるー



趣 旨

在住外国人の永住化が進む中、外国につながりをもつ子どもたちは多様化し、様々な問題が表面化してきています。また、日本国籍でありながら日本語が必要な児童生徒も見られます。外国につながりをもつ子どもたちが、ことばや文化のハンディーを乗り越え、日本の小学校でスムーズなスタートをきれるような支援として、就学前プレスクールの取組みが挙げられます。本団体では、山梨県初のプレスクール実施（10 月下旬～）にあたり、その指導者・ボランティアの養成講座を開催します。これは、単に今回のプレスクールのためだけの養成講座ではなく、外国につながる子どもたちの現状を多くの方に知っていただき、今後、県内各地にこの活動が広がっていくことを願って行う講座です。なお、2 日間の受講を完了した方には、受講終了書が与えられます。

日時：2014 年 9 月 13 日(土)・14 日(日) 10:00～16:00（両日とも）

自然災害により実施できない場合は、延期。

延期の場合：10 月 4 日(土)・5 日(日)

場所：未定（山梨県立大学飯田キャンパス A 館 5 階）

講師：川崎 直子 氏（愛知産業大学短期大学准教授・かにえ子ども日本語の会代表・外国人児童発達障害研究会代表）

ピッチフォード 理恵 氏（NPO 法人青少年自立援助センター多文化子ども・若者日本語教室
コーディネーター、多文化社会コーディネーター）

矢沢 悦子 氏（特定非営利活動法人日本ペルー共生協会 非常勤講師）

奥村 圭子 氏（山梨大学教授）

萩原 孝恵 氏（山梨県立大学准教授）

長坂 香織 氏（山梨県立大学准教授・多文化社会の保健医療を考える会 JUNTOS 代表・多文化マネージャー・多文化社会コーディネーター）

対象者：子どもに関わる仕事（教員、保育士、養護教諭、保健師など）に携わっている方、またそれを目指している方、外国籍児童生徒の学習支援教室の運営を目指している方、その他、外国につながるのある子どもとの活動に興味・関心のある方、学生も大歓迎です。



申込み：受講希望者は、参加申込書を fax で、または申込書の記述事項をメールで送ってください。締切は、9 月 1 日(月)です。

受講費：3,000 円（資料・お茶代として）

主催：多文化社会の保健医療を考える会 JUNTOS

共催：山梨県立大学地域研究交流センター

後援：中央市教育委員会、中央市国際交流協会 **助成：**山梨鈴木事業財団

お問い合わせ：050-3595-3181（JUNTOS 代表 長坂）

日程：

9月13日(土)		9月14日(日)	
テーマ：今、子どもたちに何が起きているか		テーマ：これから何ができるか	
10:00～10:15	開講式	10:00～10:45	講義：プレスクールの役割と意義(1) (川崎直子)
10:15～11:05	現状報告：地域における多文化共生 (長坂香織)	10:55～11:40	講義：プレスクールの役割と意義(2) (川崎直子)
11:15～12:00	講義：子どもの発達と学習(1) (川崎直子)	11:40～12:50	昼食*
12:00～13:10	昼食*	12:50～14:20	実践報告：プレスクールの実際 (川崎直子・矢沢悦子・ピッチフォード理恵)
13:10～13:55	講義：子どもの発達と学習(2) (川崎直子)	14:30～15:10	演習：私たちにできること**
13:55～14:15	ティーブレイク	15:10～16:00	振り返りとまとめ
14:15～15:25	実践報告：外国につながりをもつ子どもたちとその背景 (ピッチフォード理恵)	16:00～16:10	修了証書授与～閉校式
15:25～16:10	振り返り		

講師名については、敬称を略させていただきました。

*昼食は、各自ご用意ください。

**演習は、講師全員で担当します。

♪♪ なお、プレスクールの実施は、中央市で10月後半から、土曜日の午後、10回にわたり実施いたします。詳しくは、養成講座でお知らせいたします。

参 加 申 込 書(

氏名：_____性別：男性／女性

年代： 10代・20代・30代・40代・50代以上

住所：〒_____

電話番号：_____

メールアドレス：_____

参加理由：_____

FAX：055-253-9397 E-mail：yamanashijuntos@gmail.com

JUNTOS

外国につながる子どものための プレスクール

プレスクールは、来年の4月、日本の小学校に入学
するお子さんが、入学前に、小学校での学習や生活
の準備として、ひらがなやかず、そして日本の学校
の習慣を学ぶ取組です。



保護者の方のための会も、2回あり
ます。

日時：毎週土曜日 14:00-16:00

♪ 11月1日(土)から1月24日(土)まで10回

♪ 休み: 12月27日、1月3日・10日

♪ 保護者の会: 2014年11月1日/2015年1月24日

場所：中央市玉穂総合会館 1階 1-1

対象：外国籍もしくは保護者の何れかが外国籍で、
2015年4月に小学校に入学する子供

申込み・お問い合わせ：保護者氏名、住所、電話番号、
お子さまのお名前を、Faxで送信して下さい。

Fax: 055-253-9397 (JUNTOS)

Phone: 050-3595-3181 (長坂)

助成：山梨鈴木事業財団

Come & Join us!

JUNTOS

Preescolar para niños extranjeros

El preescolar está dirigido a los niños que van a la escuela
primaria en abril del próximo año. Tiene como objetivo
preparar el mismo para la vida escolar, adquirir nociones de
hiragana y números antes de comenzar la escuela.

Tenemos dos reuniones con los responsables.

Horario: todos los sábados desde 14:00 horas

♪ De 01/ noviembre/2014 hasta el 24/enero/2015 – 10 veces

♪ 27/diciembre/2014, 03 y 10/enero/2015 – no hay

♪ 01/noviembre/2014 y 24/enero/2015 – reunión con los padres

Público: niño extranjero o uno de los padres hijo de
extranjero.

Información y inscripción:

Envie por fax: nombre del responsable, nombre del
niño dirección, número de teléfono

Fax: 055-253-9397 (Juntos)

Teléfono: 050-3595-3181 (Nagasaki)

Patrocinado por: Fundación Yamanashi Suzuki

JUNTOS

Pré-escola para crianças estrangeiras

A pré-escola é destinada às crianças que irão para a escola
primária em abril do próximo ano. Tem o objetivo de preparar
as mesmas para a vida escolar, adquirir noções de hiragana
e números antes de iniciar a atividade escolar.

Teremos 2 reuniões destinadas aos responsáveis.

Horário: todos os sábados a partir das 14 horas

♪ de 01/novembro/2014 até 24/janeiro/2015 – 10 vezes

♪ 27/dezembro/2014, 03 e 10/janeiro/2015 – folga

♪ 01/novembro/2014 e 24/janeiro/2015 – reunião com os
pais

Local: 1º andar – sala 1-1, Chuo-shi, Tamaho Sougou Kaikan

Público-alvo: criança estrangeira ou um dos pais, filho de
estrangeiro

Inscrições e Informações:

Envie por fax: nome do responsável, nome da criança
endereço, telefone

Fax: 055-253-9397 (Juntos)

Fone: 050-3595-3181 (Nagasaki)

Patrocínio: Fundação Yamanashi Suzuki

JUNTOS Preschool for children from different cultural backgrounds



This preschool will provide a preparation
opportunity for children who will enroll in a Japanese primary
school in April 2015. Children will learn basic *hiragana* and
numbers as well as Japanese school customs and systems.
There will also be two support events for their parents.

Date: ♪ Saturdays from the 1st of November 2014 to
the 24th of January 2015 (10 classes).

♪ Preschool will be closed on the 27th of Dec
2014 and the 3rd and the 10th of Jan 2015.

♪ Support events for parents will be on the 1st of
Nov 2014 and the 24th of Jan 2015.

Time: 14:00~16:00

Venue: Room1-1 1F, Chuo City Tamaho Sogo Kaikan

Eligibility: Children who will enroll in a Japanese primary
school in April 2015 and were either born or have
at least one parent who was born overseas.

Contact & Application:

To apply, please send both your name and your
children's and your contact details (address and
phone number) by fax or alternatively contact us
directly on the number below

Fax: 055-253-9397 (JUNTOS)

Phone: 050-3595-3181 (Nagasaki)

Supported by: Yamanashi Suzuki Jigyo Zaidan

**Come along and Join our new preschool program! We
are looking forward to meeting you all!**

主催：多文化社会の保健医療を考える会JUNTOS

後援：(公財)山梨県国際交流協会、中央市教育委員会、中央市国際交流協会

JUNTOS プレスクール 小学校へ入学する子どもをもつ外国籍の親の会

外国籍のお父さま、お母さま
4 月から 小学校に入学する子どもが いますか？ 日本の小学校での 子
どもの勉強や生活について 知りたいこと 聞きたいことが ありますか？
JUNTOS では、小学校での勉強や生活について、説明します。
ぜひ、参加してください。

- ◆ 4 月に入学する子どもと 一緒に来てください。
子どもは、プレススクールで あずかります。プレススクールは、同じ 中央
市玉穂総合会館(ちゅうおうしうしたまほそうごうかいかん) で、やっています。

日時：2015 年 1 月 24 日 14:00~16:00

場所：中央市玉穂総合会館(ちゅうおうしうしたまほそうごうかいかん) 1F

対象：子どもが 2015 年 4 月に小学校に入学する、外国籍のお父さん、
お母さん、おじいさん、おばあさん

申込み：必要ありません。直接、来てください。

後援：(公財)山梨県国際交流協会、中央市教育委員会、中央市国際交流協
会、山梨県立大学地域研究交流センター、
助成：鈴木助成金財団



JUNTOS PRE-ESCOLA

ポルトガル語

Encontro de pais estrangeiros de crianças que irão para o Shougakkou (1º. ano do ensino fundamental)

Aos Pais estrangeiros,

Tem filhos que vão frequentar o ensino fundamental (shougakkou) a partir de abril? Deseja esclarecer dúvidas em relação a vida escolar japonesa? A

JUNTOS esclarecerá suas dúvidas!

PARTICIPE!

- ◆ Venha junto com o seu filho que vai para o shougakkou do mes de abril. A criança ficará na pre-escola que fica no mesmo predio.

Data e horário: dia 24 de janeiro de 2015 das 14 as 16 horas

Local: Chuo-shi, Tamaho Sougoukaikan, 1º. andar, sala 1-1

Público-alvo: pais e familiares de crianças que entrarão na escola em abril desse ano.

Inscrição: não é necessário. Venha participar diretamente!

Promoção: JUNTOS Sociedade Multicultural que apoia a saúde

Patrocinador: Centro de Pesquisas Regionais e Intercambio da Universidade Estadual de Yamanashi

Suporte: Associação Internacional de Intercambio de Yamanashi, Secretaria da Educação de Chuo-shi, Associação de Intercambio Internacional de Chuo-shi, Centro de Pesquisas Regionais e Intercambio da Universidade Estadual de Yamanashi

Subsídio: Fundação Yamanashi Suzuki

Informações: yamanashijuntos@gmail.com

JUNTOS PREESCOLAR

スペイン語

Reunión de padres extranjeros de los niños que van a la escuela primaria (1er grado de primaria)

A los Padres extranjeros, que tienen hijos que asisten a la escuela primaria (shougakkou) en abril de 2015. ¿Quiere aclarar dudas acerca de la vida escolar japonesa? La JUNTOS estara aclarando tus dudas! ¡

PARTICIPE!

- ◆ Venga con su hijo que va a la escuela primaria en el mes de abril. El niño permanecerá en la preescuela que se encuentra en el mismo edificio.

Fecha y hora: 24 de enero de 2015 desde 14:00 a las 16:00 hs

Lugar: Chuo-shi, Tamaho Sougoukaikan, 1. piso, sala 1-1

Publico: los padres y familiares de niños que frecuentarán a la escuela en abril de ese año.

Inscripción: no és necesario. Ven a participar directamente.

Promoción: Sociedad Multicultural JUNTOS que apoya a la salud de los extranjeros

Patrocinador: Centro de Investigaciones Regionales y Intercambio de la Universidad Estatal de Yamanashi

Suporte: Asociación Internacional de Intercambio de Yamanashi, Secretaria de Educación de Chuo-shi, Asociación de Intercambio Internacional de Chuo-shi, Centro de Investigaciones Regionales y Intercambio de la Universidad Estatal de Yamanashi

Subsidio: Fundación Yamanashi Suzuki

Informaciones: yamanashijuntos@gmail.com

